
SHIN - MEN 短編集

ぽつき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SHIN-MEN 短編集

【ZPDF】

Z9240Z

【作者名】

ぱつき

【あらすじ】

いつものんびりの5人組SHIN-MENのお気楽短編集。
お気楽にどうぞっ！

ルナーの歌謡（童謡）

「つむかひじこヒューが！？」
「ウ「なになにへどうなるのへへ」
それは見てのお楽しみ！」

ヒューの弱点

ゴウ「今日の夜シンメンハウスでだいかん大会をするゾ！！」

ゴウ以外「「？」」

サイーもしかして…怪談大會にて言いたいサイ?」

いや、そうとしか言わないのでガ

「アキ「おもしろいだよー。」

カン、たしかに自分もそこには好きだせ！」
力、カンまで乗り気になつてゐる！？（汗）

「ウ「じゃあ、今夜つてことじでー。」

その夜

コウ一では、かんたい大会を始めるソ!!!

第三章 計算機的運算

談話が苦手なのダ！

カン一順番はどうするんだぜ?」

「…………」

の力

ひイイイー！ 嫌ダ嫌ダ嫌ダアアアアアアアアー！

数時間後

カン「よしつ自分の怪談はこれで終わりだぜ！」

「ミキ「あんまり怖くなかったNA、次はヒューさんの番だYO!」

セイタ

「うーん、どうしたんだ？」セリーナちゃん？

ヒューラウド

4人（（（（泣いてる！？））））

カン、どうしたんだヒニー！？

「わが、物、の、う、れ、し、が、あ、り、ま、す。」

「ウ 「あ、ヒコーさんの後ろに…」

（四）

カン「…もしかしてヒューは怪談が苦手だつたんじやあ…」

3人「「「あ、やつぱり？」」」

「うーん、どうも、おまかせだよ。」

はなしでいる間ヒニーサン^ミと源田たゞなしれ
ま

約1ヶ月間ヒューが暗いところにいられなかつたのはまた別の話…

ヒューの弱点（後書き）

まさかヒューの弱点が怪談話とは…
次はカン!!

カンのパート（龍書モ）

今回の主役は誰のアイドルカンちゃんーーー！

カン「誰がアイドルだつーーー!?」

ヒュー「／＼／＼（ドキドキ）」

それでは始まりーーー！

カンのプライド

「ゴウ「…カンつて身長どれづくらい?」

「カン「はあ? な、何の事だかさつぱりだぜ?」

「ニヨキ「確かにカンつて身長低そうだな?」

「スイ「僕よりも小さそなイメージあるでスイ~」「ガーン!~まさかスイにまで言われるとはつー!~

「カン「…じつ自分は…ううう(涙目)」

「3人() (うつ!?)からかいすぎた? () ()

確かに…スーツを着ているから自分は大きく見えるけれど…
実際自分はスイよりも少し小さいのかも知れない

「ヒュー? 何の話をしているのダ?」

「カン「あ、ヒュー? 自分はそんなにも小さいのか?」

「ゴウ「ちいっさいよね~」

「ゴッ ゲンコツの音

「ヒュー「そんなことを平然と本人の前で言うナツツ!~!~」

「ヒュー、自分をかばってくれるのか? やっぱり優しいやつだぜ。

「ヒュー「ところで何の話をしていたのダ?」

「ガクツ!~!~ 4人がこけた

「結局ヒューは何にもわかつてなかつたようだな…

「スイ「かくかくしかじかだスイ」

「ヒュー「ほう…カン」

カン「へつ！？な、何だぜ！？」

ヒュー「そんなこと気にしなくてもカンはカンダ。わたしたちの仲間ではないカツ！！」

ヒュー……自分のことをそんなにも考えててくれていただきなんて…

「ゴウ「ま、小さい」とには変わりないけどね～」

「ゴウ、カン以外（（（…！？？？）））

カン「…」
ガシャンツ ジャコツ

4人「？」

カン「このボケゴウつ念佛は唱え終わつたかああ…！…（怒）」

ドカンドカンツ ミサイル発射

4人「…う、うわああああああああ…！…！…？？？」

（数分後）

カン「ふんつ」

ゴウ「うう～…」 ボロボロ

ニヨキ「ま、ゴウも自業自得だゾ！」

ヒュー「その通りだナ」

カン「…牛乳飲もうかな（汗）」

SHIN-MENハウスの冷蔵庫にしばらく大量の牛乳が入つていたのは言つまでもない

カンのプライド（後書き）

カン「べつ別に自分は気にしてなんか…」
3人「してるしてる」
まあまあ、そんなに言わないの！
お次は一ヨキ！！

一ヨキ「？」

「『キのグラサン（前書き）

はたまた、大惨事の予感！！

ゴウ「ださいんじつて何？」

4人「「「だ・い・さ・ん・じ！・！・！」」」

始まります（汗）

「ヨキのグラサン

「ヨキ」なあ、俺のグラサン知らないかYO? 「

4人「「「「グラサン? ? ? ?」」」

スイ「え…あれゴーグルじやなかつたんだ」
プールかYO! ? 見てわかんないものか! ?

カン「そういえば…昨日テーブルに置いていたぜ?」
ヒュー「うむ。わたしもそれはみていたのダ」
ゴウ「…え、あれニヨキのだつたのぉ! ?」
…[リ]にてまさかの犯人はゴウだつたのかYO! ! !

スイ「ゴウちゃんはホントにお馬鹿でスイ」

「ヨキ」はやくかえせ! ! 僕のグラサン! ! !
ゴウ「え、あればオラがひろつたんだゾ! だからオラのものだゾ
! ! !」
いやいやいやー落としてない! ! ! てゆーか貰つたら泥棒になる
YO! ! !

ヒュー「ゴウ、拾つたものは落とし主が現れたらきちんと返却する
ものダ! !」

ゴウ「? ? ?」

カン「だから、ニヨキが返せといつてるから返さないといけないん
だよ!」

ゴウ「え、でもオラこれ欲しいんだもーん」
ええ…元々は俺のグラサンだったのにいー(泣) 返してくれY

「――――――

スイ「ニヨキちゃん、僕に任せるでスイ」「ニヨキ「え……？？」

スイ「ゴウちゃん、それ返してあげて！！」
ゴウ「ええ～これオラのあ～」
ぼーらね、こうなるに決まってるんだゾ！――諦めるしかないのか
なあ……

スイ「おねいさん紹介するよ？」

ゴウ「まじい！？　じゃあこれは返すゾ～」

コケツ　3人がこけた

スイ「はい、ニヨキちゃん」
ニヨキ「Thank you...」

カソ「とりあえず一件落着のようだな…」
ヒュー「どうか…おねいさんでかたがつぐのか」

ニヨキ「なんか今日は疲れたゾ」

まだまだ「ゴウの扱い方がよくわかつてない」ニヨキであった。

ニヨキ「わからないに決まってるゾ――――――」

「ヨキのグラサン（後書き）

「ウー、アキ、グラサンビ」で買ったの?」

「ヨキ、それは秘密だYO！」

「え…めんどくさいでスイ」
「おい！？？」

スイのお肌チェック（前書き）

今日はスイちゃんで～す！！

スイ「肌のお手入れしてないね。厳しくいくでスイ！」

ヒイイイイイイイイイイイイイ！？？？？

ゴウ「始まるゾ～」

スイのお肌チェック

スイ「君らつてお肌の手入れとかしてる?」

4人「「「「へ?」」」

やつぱり…最近なんか気になると思つたら監^{せん}手入れをしていなかつたスイ

ヒュー「なぜ手入れをしないといけないのダ?」

「ウ「そうだゾ!! オラはイケメンだから必要ないゾ!!」

ニヨキ「俺もしなくてもいいと思つゾ~」

カン「自分もそんなに肌は気にしないゼ」

スイ「それがいけないんでスイ!! 艶々で潤いのあるお肌は大切なの!!(怒)」

「ウ「でもオラそんなことやつてるお暇がないしい~」

暇がない..

ニヨキ「そんなにやり方知らないゾ~」

やり方を知らない..

ヒュー「はつきりいつて道具自体もつてないしね~」

道具自体をもつていな..

カン「できな~」と呟^{のん}くしだぜ..

スイ「そんのは…」

4人「() ((?))))

スイ「そんなのは僕が何とかするでスイイイイイイイイイ…」

ヒュー「うわあつー?スイが(違う方向で)キレタ…!…?…?…?」

スイ「4人ともそろつて覚悟するでスイイイイイイイイ…!…!…!

4人「……うつぎやああああああつあああ」

（数十分後）

スイ「ふうううみんな艶々のプルプルでスイ」

4人「……うへえええ」ピカピカ

スイ「お肌は僕にお任せだスイ」

スイのお肌チェック（後書き）

いやあ～スイちゃんにはやられましたな… ピカピカの作者
カン「ぽつきい…お前まで」

ヒュー「いつもそうしていたら女々しいのにナ
なつ／＼／＼ お次は『ゴウ先輩！』

ゴウ「ほつほ～い」

4人（（（（なんで先輩？））））

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9240z/>

SHIN - MEN 短編集

2012年1月5日20時54分発行